

詩編 118 : 22～25

ルカによる福音書 24 : 44～49

「復活の証人」

【前奏】

【招詞】 イザヤ書 12 : 4～6

【祈祷】

【聖書】 詩編 118 : 22～25、ルカによる福音書 24 : 44～49

【説教】 「復活の証人」

<復活のイエスさま>

旧約聖書には、神さまの思い、神さまの救いのご計画が語られています。それは、神さまに背き、離れ、滅びへと向かっていくわたしたちすべての人間を、罪から救うご計画であり、わたしたちを神さまと共に生きる者とするためのご計画です。

その神さまの救いのご計画として、旧約聖書には「メシアは苦しみを受け、栄光に入る」ということが語られていました。

メシア。神さまは、救いのご計画を実現するために、この世にメシア、つまり救い主を遣わして下さいます。そして、この救い主は、苦しみを受けます。それは、この世のすべての人間の罪を、このメシアが代わりに一人で担い、一人一人の罪人が受けるべき神の裁きを、すべて代わりに引き受け、滅ぼされるべき者に罪の赦しを与えて命を得させるために、ご自分を死に引き渡されるからです。

それは、まさに神さまが遣わして下さいした神の独り子、イエスさまが、十字架に架かって苦しみを受け、死んで下さったことによって成し遂げて下さったことでした。

そして、メシアは苦しみを受けた後に、「栄光に入る」とされています。

これは、神の力が死に勝利して、十字架で死なれたイエスさまが、三日目に復活なさることです。また、その復活の後、天に上げられて、父なる神の右に座り、天と地のすべてをご支配なさる、ということです。

今日の聖書の箇所は、そうして聖書に語られた通りに、メシアとして十字架の死を遂げられ、そして死者の中から栄光の体をもってよみがえられたイエスさまが、弟子たちの前に現れて、語りかけておられる場面です。

そして、次週の聖書箇所で、復活のイエスさまは、天に上げられるのです。

イエスさまが、天に上げられたなら、地上を生きる弟子たちの目には、イエスさまの、その復活の体を持つ具体的なお姿が、見えなくなってしまいます。

そうすれば、もう弟子たちは、十字架につけられる前の時のように、イエスさまと寝食を共にして、一緒に旅をして、地上の人間と人間と一緒に過ごすようには、イエスさまとご一緒に過ごすことは出来なくなるのです。

ですからその前に、イエスさまは弟子たちに、ご自分が天に上げられた後の歩みのことを示し、弟子たちに備えをさせられました。

今日はそのような場面です。

<一緒にいない？>

さて、今日の44節で、まずイエスさまはこのように語られます。「わたしについてモーセの律法と預言者の書と詩編に書いてある事柄は、必ずすべて実現する。これこそ、まだあなたがたと一緒にいたころ、言っておいたことである。」

「モーセの律法と預言者の書と詩編」とは、今のわたしたちで言う「旧約聖書」のことです。イエスさまはここで、旧約聖書のことを、「わたしについて…書いてある事柄」であると仰って、先程申し上げたように、旧約聖書に語られている神さまの御言葉は、すべてご自分において実現すると告げられました。

このことは、十字架につけられる前も、そして復活なされてからも、イエスさまが弟子たちに繰り返し語られてきたことです。

そして、ここで少し、注目したい表現があります。復活のイエスさまは、十字架につけられる前の時のことを「まだあなたがたと一緒にいたころ」と言われました。「まだあなたがたと一緒にいたころ」。これは、イエスさまが復活なされた今現在は、まるで「あなたがたと一緒にいない」と言っているようではないでしょうか。

ルカによる福音書の24章に入ってから、復活のイエスさまがどのように弟子たちに現れて下さったのかを見てきました。あの、十字架につけられ、確かに死なれたイエスさまが、復活して生きておられる、ということ。決して別人などではなく、また実体のないものや、幻などではなく、確かにこの地上に生まれ、弟子たちと共に歩み、十字架で死なれたあのイエスさまが、新しい復活の体をもってよみがえられたのだ、と示されてきました。

しかしまた、その復活の体は、十字架の前の体と全く同じではありませんでした。復活の体は、もはや朽ちない体、力強い体、栄光の体です。復活なされたイエスさまは、食卓で依然と同じように振る舞われたり、また魚を食べたりもなさいました。しかしまた、急にお姿が見えなくなったり、また弟子たちの真ん中に急に現れたりもなさいました。復活の体は、神さまの力と栄光に満ちた、わたしたちの想像の及ばない、新しい体なのです。

ですから、復活なされたイエスさまは、もう以前の、十字架につけられる前と全く同じような仕方で、弟子たちと一緒におられるのではない、ということです。

そしてこの後、復活なさったイエスさまが天に上げられたなら、それ以降は、弟子たちも、どのような人たちも、通常の間人が互いに一緒にいるような形で、それはつまり、目で直接姿を見て、耳で直接声を聞いて、手で直接体に触れて、という仕方では、イエスさまとご一緒に過ごすことは出来なくなります。

ですから、イエスさまが天に上げられたなら、これからはイエスさまを、この肉体の目で見ることなく、確かに復活して生きておられ、いつも必ず共にいて下さるお方であると「信じて」歩む。そのような時代が、始まっていくのです。

<聖書>

そのように新しい時代になったならば、十字架以前の時のように、直接目の前のイエスさまから御言葉を教えていただくことは出来なくなります。ですから、その新しい時代の歩みのためにこそ、イエスさまは弟子たちに、聖書に語られていることは、まさにご自分のことであると、繰り返し示しておられるのです。

なぜなら、これからは、この聖書の御言葉こそが、神さまの御心を示し、イエスさまの救いの出来事を証しし、見えない事柄を信じるための導き、灯火となっていくからです。

ですから、45節にはこうあります。「そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて、言われた。『次のように書いてある。「メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる」と』」。

イエスさまは、まず弟子たちに聖書を悟らせようとなさいます。つまり、聖書に語られていることは、神さまの確かな御心であり、確かに実現することであり、確かな真実である、と受け入れることが出来るように、「彼らの心の目を開」かれたのです。

現実や、常識や、自分の思いに閉ざされた目や、耳や、心では、わたしたちの思いを超えた神さまの御心も、ご計画も、イエスさまの十字架と復活の御業も、決して受け入れることは出来ません。

そんなわたしたちの心を開いて、御言葉を受け入れさせ、信じる者として下さることも、イエスさまがその神の御力によって成して下さることなのです。

<必ず実現する御言葉>

そしてイエスさまは、聖書にこう書いてあると言って、二つのことを告げられました。

一つは、「メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する」ということです。

これはイエスさまご自身が、十字架につけられて死に、そして今、弟子たちの目の前に復活して現れることによって、この聖書に書かれていることは確かに実現した、ということを示されました。イエスさまが、「わたしについて、聖書に書いてある事柄は、必ずすべて実現する」と言われた通りです。

そして聖書に書いてあるもう一つのこととは、「罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる」ということです。

旧約聖書には、神さまの救いのご計画が、メシアが苦しみを受け、栄光に入ることで実現するということ。そして、そのように実現した「罪の赦しを得させる悔い改め」、つまり、救いの恵みが、イスラエルの民、ユダヤ人だけではなく、異邦人にも、あらゆる国の人々にも宣べ伝えられる。そのことが、神さまの御心として、ご計画として、語られています。

そうであるなら、聖書に書かれているこのこともまた、確かに実現するのです。

例えば、後で読んでいただいたらよいのですが、旧約聖書のイザヤ書 56 章には、異邦人の救いについて、はっきりと語られているところがあります。

また、イザヤ書 2:3 には、終わりの日の預言として、こう書かれています。「多くの民が来て言う。『主の山に登り、ヤコブの神の家に行こう。主はわたしたちに道を示される。わたしたちはその道を歩もう』と。主の教えはシオンから／御言葉はエルサレムから出る。」

主の教えはシオンから、御言葉はエルサレムから出て、世界の多くの民が、主の山に登り、神の家に来て、主の道を歩むのだと告げられています。

これもまた、聖書に語られている神さまの御心です。だから、必ず実現します。

聖書に語られていることを、実現なさるのは神さまご自身です。ですから、あらゆる国の人々に救いが宣べ伝えられるということは、神さまの確かな約束である、ということが出来ます。

しかし、その実現のために、神さまは選ばれた者たちを用いようとされます。ここで神の御子イエスさまは、弟子たちを、ご自分の証人として立たせて、用いようとしておられるのです。イエスさまはこう言われました。

「エルサレムから始めて、あなたがたはこれらのことの証人となる」。「あなたがたが、エルサレムから始めて、世界中のあらゆる国の人々に、わたしが聖書に語られている神の救いの計画を実現したメシアであることを、証言するのだ」。

ついさっきまで、イエスさまの復活を信じなかったり、驚いたり、喜んだり、また疑ったりしていた弟子たちです。そんな彼らが、イエスさまの十字架と復活の証人として、聖書に語られている神さまのご計画の実現のために用いられるというのです。しかも、ユダヤ人だけでなく、世界の人々に宣べ伝えることになる。

それは弟子たち自身にとっても、思いもよらない使命だったでしょう。疑い深い弟子たちに、どうしてそんなことが出来るのでしょうか。逃げ出してしまった弟子たちのどこに、そんな力があるのでしょうか。

しかし、あらゆる国の人々の救い、世界のすべての人々に罪の赦しを得させるための御業は、もうすでに成し遂げられたのです。救いは、イエスさまが、もう実現なさったのです。

後は、世界中の一人一人に、この救いの知らせが届けられ、一人一人に受け取られるのを

待つばかりなのです。

…聖書に語られた、神さまの救いの御業は実現した。救い主イエスさまの十字架の死によって、神さまに背いたあなたの罪は、もう赦されている。だからあなたは、この罪の赦しをただ感謝して受け取りなさい。あなたを愛して、ずっと待っておられる神さまの許に帰ってきなさい。そうして、復活の命の約束を受け、神さまと共に生きる者となりなさい。

この、救いへの招きを、世界中の人々に届けるために、イエスさまは弟子たちを用いようとしておられるのです。

そのために、何よりもまず弟子たち自身が、この救いの恵みにあずかりました。彼らの弱さも、愚かさも、疑い深さも、罪も、死も、イエスさまがすべて引き受けて下さいました。

そして、罪人から救われた者へ、疑う者から信じる者へ、イエスさまの救いの力が、彼らを新しく変えてくださったのです。

ですから、この救いを伝える業もまた、イエスさまの赦しによって、イエスさまの力によって、イエスさまの恵みによって、弟子たちに託されたものなのです。そしてこのことは、神さまのご計画であり、御心であり、聖書に語られていることですから、必ずすべて、実現する。その確かな約束と共に、弟子たちは証人として立てられたのです。

<待つこと>

弟子たちは、イエスさまによって心の目を開かれ、聖書の御言葉が真実であると、必ずすべて実現すると、悟られました。しかし、すぐに遣わされたわけではありません。イエスさまは、まず弟子たちに、エルサレムの都に留まって待つことを命じられたのです。

49 節「わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。」

イエスさまは、父が約束されたものをあなたがたに送る、と語られました。それは、高い所からの力であり、あなたたちを覆うものだ、と言われます。それを受けるまで、都に留まっていなさい、と。

そして、この後に起こった具体的な出来事について、ルカによる福音書の著者は、その続編として記した「使徒言行録」に詳しく記しました。

今日の所で語られている、父が約束され、イエスさまが送って下さるものとは、使徒言行録によれば、「聖霊」のことです。聖霊なる神さまの力が、弟子たちを覆う。それはまさに、ペンテコステの聖霊降臨の出来事でした。

使徒言行録には、復活の後、イエスさまが四十日間、弟子たちと共に過ごされたことが語られています。そして、復活のイエスさまは天に上げられ、そのお姿は見えなくなりました。

弟子たちはその後も、イエスさまの今日の御言葉を守り、都に留まっていました。

そうすると、ペンテコステの日に、弟子たちに聖霊が降ったのです。

聖霊を受けた弟子たちは、神の言葉を、あらゆる国の言葉で語り出しました。

こうして弟子たちは、聖書に書かれていることを実現して下さった、救い主イエスさまのことを、十字架と復活の出来事を、罪の赦しと悔い改めを、世界の人々に向けて語り始めたのです。

そして、信じる者が興されていった。ここに、教会が誕生しました。聖霊が注がれ、神さまの御言葉が語られるところに、復活のイエスさまが証しされるところに、イエスさまを信じる者たちが興され、イエスさまに救われた者の群れである教会が築かれていったのです。

<教会の時代>

そして、聖霊を受けた、このエルサレムの弟子たちから始まって、神の御言葉は、イエスさまの救いは、今ここにいるわたしたちにも、異邦人の、遠い国のわたしたちにも、届けられました。

今ここにいるわたしたちも、イエスさまが送って下さった聖霊が働いて下さり、わたしたちは心の目を開かれ、聖書の御言葉を悟らせられ、十字架と復活の救いの御業を、信じる者とされたのです。

わたしたちは、復活のイエスさまのお姿をこの目で見たことはありません。これからも、世の終わりの日まで、直接この目で見ることはありません。

しかし、聖霊なる神さまのお働きによって、わたしたちは今、聖書の御言葉を通して、弟子たちの証しを通して、復活し、生きておられる、わたしたちの罪の贖いを成し遂げて下さったイエスさまを、確かに信じる者とされています。

これは驚くべきことです。とても不思議なことです。しかし、こうしてわたしたちが救いに与ることも、聖書にも語られていた神さまの御心であり、イエスさまの御力によって、聖霊のお働きによって、確かにわたしたちの上に、実現して下さったことなのです。

この目には直接は見えないけれど、わたしたちは、確かに生きておられるイエスさまと共にあります。確かに神さまの救いの恵みの中に生かされています。

だからこそ、この具体的な目に見える、厳しい、苦しい現実の中でも、わたしたちは、復活し、確かに生きておられるイエスさまによって、悲しみにあっても慰められ、深い傷を負っても癒され、絶望の中にあっても希望を与えられ、その御手に救われて、支えられて、立ち上がらせていただくことが出来るのです。

ここに、そのように立ち上がらされた者たちがいること。ここに、教会があり、イエスさまを信じ、神さまを礼拝する群れがあること。ここに、わたしたちがいること。

これこそ、聖書の神さまの救いのご計画が、イエスさまによって確かに実現した証しであり、あらゆる国の人々に、イエスさまの救いが宣べ伝えられるという聖書の御言葉が、ここに確かに実現している、ということの証しです。

わたしたちはこれまでも、今日も、これからも、復活し、生きておられるイエスさまと共に

にあります。聖霊によって、見えない神さまの恵みを、確かなこととして見つめる目を与えられています。

ですからわたしたちは、神さまがわたしたちを心から愛して下さっているということ。世界のすべての人々を憐れんで下さり、救って下さるというその御心を。確かなこととして、必ず実現して下さることとして、信じて、依り頼んで、希望を持って、良いのです。

そして、そのように生かされている、ここにいるわたしたち一人一人もまた、今日の聖書の弟子たちのように、生きておられる復活のイエスさまの証人として、救いの恵みの証人として、聖霊によって送り出されているのです。

【お祈り】

天の父なる神さま

あなたの御心は、あなたの御力によって、必ず実現します。聖書に語られた救いのご計画を、御子イエスさまが成し遂げて下さったこと。聖書に語られた異邦人の救いを、わたしたちの上にも実現して下さったことを、心から感謝いたします。

これからも、あなたはその救いの御心を必ず実現して下さいます。これからも世界中の罪人を救いへ招いて下さいます。終わりの日には神さまの御国を完成して下さい、信じた者たちを復活の恵みに与らせて下さいます。どうかその御心がなりますように。

これからもわたしたちを聖霊の御力で覆って下さり、心の目を開いて御言葉を悟らせ、いつも共にいて下さる復活のイエスさまを、喜んで証しする者として下さい。

イエスさまの御名によって祈ります。アーメン

【讚美歌】 405 「すべての人に」

【信仰告白】 使徒信条

【献金】

【主の祈り】

【讚美歌】 28 「み栄あれや」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン